

BBC Learning Englishの“Grammar”を活用したBL型

「英語の文法」の授業開発

Development of Blended Learning-Style “English Grammar”

Course Utilizing BBC Learning English “Grammar”

新 藤 照 夫

要 旨

近年の大学1年生の多くは中学校、高等学校でのスピーキングを中心とした英語教育の影響により、文法の知識が脆弱な傾向にある。英語の4技能を向上させるには、文法の知識や理解が重要な役割を果たすため、大学1年次に、英語の文法の知識を定着させることは極めて重要である。本稿では、英語の教員養成課程科目である1年次配当の「英語の文法」の授業に、BBC Learning Englishの‘Grammar’コンテンツを自学自習用課題として組み込むことで、継続的な自学自習を促進するブレンディッド・ラーニングの授業を提案している。

キーワード：BBC Learning English、Grammar、ブレンディッド・ラーニング、自学自習

1. はじめに

1990年代後半以降から現在にかけて大学生の英語の文法に関する知識の低下が叫ばれ続けてきた。佐藤他（2007）では、中学校検定済教科書をもとに、1年生を対象とした全104項目からなる「並べ替えテスト」を計12回実施しデータを収集、分析した結果、24項目において正答率が50%を割り、「中学校3年間で学習する文法事項全104項目の内、24項目が習熟に関しては未達成といえる結果」を示し、学習の初期段階におけるつまづきや、学力格差が拡大している現状を明らかにしている。

その英語の文法力の低下には、さまざまな原因が考えられる。一部の例を挙げると、学習指導要領の改訂による文法の学習時間の減少、大学入試の出題傾向の影響、学力重視から多様な能力を重視する入試制度の変化、入学試験の高合格率による学習量の減少、大学における教養教育の解体などが考えられる。近年では英語自体は好きであり、その必要性は理解しているものの、文法は苦手という学生の声を頻りに耳にするようになってきた。

このような状況は、多くの先行研究でも提示されており、以下ではそれらの一部を紹介した

い。前田（2010）では、大学の1年生の英文法理解度について調査を行い、能力別のクラスにおいて、Advancedクラスでは中学レベルの文法はほぼ理解しているものの、一部の項目で習得が不十分とし、Standardクラスに至っては中学レベルの文法の多くの項目で理解や習得がなされていないと述べている。

日暮 他（2012）では、大学生の入学前の文法の定着度を調査し、様々な文法項目で理解不足な状況を提示しており、文法性の理解は基礎文法レベルとして、文法の知識はある程度持っているが、実際の英語と結びついていないとしている。また、文法習得に対して低い評価を下す「情意フィルター」が形成されていることを指摘している。その状況を踏まえ、英語を使用するコミュニケーションの授業の中でCLIL方式による文法教育の必要性や自学自習の重要性を説いている。

徳永（2018）では、冠詞、間接疑問、関係代名詞などの項目は正しい知識に欠けることを提示し、明示的な指導および学習の重要性を説いている。さらに複数のS、進行形、完了形などは、形式の理解度と、使用すべき場面での理解度に差があることを指摘し、多読、多聴などを通してより多くの例に触れる事の必要性について言及している。

大城（2018）の英文法に対する大学生の意識・態度・行動に関する量的研究においては、「英文法に習熟することが自信の涵養や英語熟達度の向上と深く関わっていることを明らかにし」、英文法の学習や指導法に対する提案として、「明示的な文法指導の意義、知識の手続き化を通して明示的知識から暗示的知識へ変換を図ることの重要性」を説くとともに、インプットとアウトプットのバランスを図りながら4技能統合型の文法指導を行う必要性を説いている。

加藤（2020）では、日本の学習者の共通する誤用例として、「私は〇〇です。」というウナギ文に対し、あらゆる場合にbe動詞を使用して表現しようとする傾向に言及し、be動詞のいくつかの意味において理解が不十分であることを示唆している。一方で、研究の成果としては、be動詞の意味の中で、学生が理解している意味と理解が難しいものがわかり、リメディアル教育に優先的に取り入れるべき学習内容が見えてきたことを挙げ、理解が難しいパターンを重点的に教授する必要性に言及している。

横田、白畑（2021）は、大学1年生の英文法習得難易度順序に関する調査を行い、その結果、「動詞の下位範疇化」、「限定詞」、「複数形」は難度が高く、これらの文法項目の理解が弱いことを示唆している。また、第二言語習得環境下の英語習得との相関において「動詞下位範疇化」、「不変化詞の用法」、「代名詞の用法」、「語順」の習得において類似傾向を示したことで、それらの項目についても大学の英語教育で指導すべき重要なポイントとしている。

築道（2021）は、大学生英語学習者のつまずきの実態や要因を調査し、英語の基本的な語順については、平叙文や単純な構造は一定程度定着しているが、名詞句に関して英文構造に複雑な要素としての修飾構造が入ると理解が困難になることを示している。そのつまずきに対する支援策として、達成可能な課題をスモールステップで提供し、毎時の振り返りの実施とその

フィードバックを継続することで、学習者の英語学習への嫌悪感の低減と意欲の向上につながることを示唆している。また、英語教育のカリキュラムと教員養成カリキュラムの開発に重要な示唆を提供している。

長谷川（2020）では、英文法授業における協同学習の効果に焦点を当て、「教えあう」協同学習（ペア・ワーク）を実施し、教師主導型一斉講義形式との比較を行なっている。その結果、協同学習が学生の英文法力の底上げを図るための有用な教授法であり、学習効果を高めることを示唆するとともに、英文法学習への苦手意識軽減にも効果があることに言及している。

このように先行研究によって大学生の英語の文法に関する知識や理解が不足している状況が報告されており、その状況に対する対策の実践も行われていることがわかる。この知識や理解不足は、英語を専門としない学生のみならず、将来英語の教員を志望している英語の教員養成課程の学生にも当てはまる実情がある。英語が好きで、英語の教員を志望しているにも関わらず、文法事項によっては理解のばらつきがある場合もあれば、基礎的な文法事項に関しても知識や理解が乏しい場合もある。大学入学時までの英文法の学習時間が少ないことや学習方法がわからないことなどが背景にあるようである。

筆者は、神戸親和大学にて英語の教員養成課程科目である1年次春学期配当の「英語の文法」の担当しているため、英語の教員志望の学生にはより実用的で、高いレベルの4技能の習得を求めている。そのためには広範囲で深い文法の知識と理解が重要となってくるが、英語の文法を重点的に扱う授業は「英語の文法」のみとなっており、この科目が入学時の英語教員志望の学生の文法力を引き上げる役割を担っているため重要な位置付けとなっている。

そのような重要な役割の「英語の文法」の授業であるが、週に90分の授業内学修だけでは、文法に関する知識を全て習得することは困難であるため、日暮他（2012）でも自学自習の重要性を説いているように、継続的な授業外学修が不可欠となる。継続的に効果的な自学自習を促すためには、上述の先行研究で明らかになった学習者に共通する弱点のポイントに重点を置いて指導する必要もあるが、築道（2021）のように教員側の働きかけの頻度を増やすことや、長谷川（2020）のように授業内での協同学習を取り入れることも重要かと思われる。また、新藤（2023）では、BBC Learning Englishの自学自習における有用性について言及するとともに¹、授業外の自学自習の問題点に対する取り組みを踏まえ²、「英語コミュニケーション」の授業にBBC Learning Englishのコンテンツを自学自習の課題として組み込み、ブレンディッド・ラーニングの重要性を示唆している。

そこで、本稿では、上述の先行研究によって提示された学習者の傾向や支援策を参考にした「英語の文法」授業を考案することとする。具体的には神戸親和大学の英語教員養成課程の1年次配当の必修科目である「英語の文法」の授業に、BBC Learning Englishの「Grammar」コンテンツを自学自習用課題として取り入れ、授業内での協同学習として組み込むことで、継続的な自学自習を促進するブレンディッド・ラーニングの授業を提案することとしたい。

2. BBC Learning English ‘Grammar’の紹介

2023年11月時点でのBBC Learning Englishは、主にコンピュータで使用するWeb版と携帯アプリ版がある。Web版では、英語の技能ごとにレベル分けが設定されているが、携帯アプリ版はレベル分けが一見してわかりやすいようには設定されておらず、Web版よりも簡略化されており、トップ画面のコンテンツが少なくなっている。英語の文法の学習者にはWeb版をメインのツールとして提示し、携帯アプリ版の場合は、レベルに関係のないプログラムを通学途中や空き時間に活用するように指示したい。

Find Everything
FREE ENGLISH COURSES
Easy English - level 1 | Easy English - level 2
Medium English - level 1 | Medium English - level 2
Hard English - level 1 | Hard English - level 2
English for Academic Purposes (medium)

ENGLISH FOR EVERYDAY SITUATIONS
6 Minute English - medium | The English We Speak - medium | English in a Minute - medium
How to Speak English naturally - medium

GRAMMAR
All easy grammar | ❶ 6 Minute Grammar – easy | ❷ Grammar reference – easy
All medium grammar | Grammar reference - medium | Grammar reference 2 - medium
6 Minute Grammar - medium | The Grammar Gameshow | Grammar class
All hard grammar | Grammar reference - hard

VOCABULARY AND PRONUNCIATION
All easy vocabulary | 6 Minute Vocabulary – easy | Easy English Words - Easy
All medium vocabulary | 6 Minute Vocabulary | English in a Minute | How to speak English naturally | Friday Phrase | Pronunciation - easy | Pronunciation - medium

FOR TEACHERS: The Teachers’ Room

ENGLISH FOR CHILDREN: Stories for Children | Joe and Bella

ENGLISH THROUGH NEWS: News Review 2023 | News Review Archive | Understanding Fake News

BUSINESS ENGLISH: English at Work | Leadership | International Law

QUIZZES: Quizzes series 1

ENGLISH THROUGH DRAMA: See all drama | Father and Son

OUR PODCASTS: See all podcasts

DOWNLOAD OUR APP: For android users | For iOS users

JOIN US ON SOCIAL MEDIA: TikTok | Facebook | YouTube | Instagram | Viber

図1 BBC Learning Englishのコンテンツ（番号、文字の囲みは筆者が追加）

BBC Learning Englishには、図1のような豊富なコンテンツがあるため、学習者のレベルやニーズに応じてコンテンツを選択することができる。本稿では英語の教員養成課程を履修している1年次生を対象とした「英語の文法」科目に活用するため、多くのコンテンツの中から図1の❶「6 Minute Grammar – easy」と❷「Grammar reference – easy」を自学自習に取り入れたい。❶「6 Minute Grammar – easy」は文法について英語でダイレクトに説明される内容や例文を使った会話を聞くことで、CLIL方式によって文法の知識を得ることができるだけでなく、リスニングの学習にもつながる点で有用性がある。また、文法に関する内容が6

分間に収録されており、PCを使うことができない環境では、スマートフォンを使ってポッドキャストを閲覧することも可能であるため、リスニング習慣の定着と隙間時間で英語の文法に関する知識を得ることができるため有用である。

「6 Minute Grammar – easy」と「Grammar reference – easy」は連動しており、それぞれ図2のような30のセッションで構成されている。1年次の「英語の文法」は春学期の15週間で開講されるため、30のセッションのうち前半の15回分のセッションを自学自習用のコンテンツとして取り入れたい。後半のセッションは自学自習の習慣付けを行なった後に、学習者自らが秋学期に継続的に自学自習するように指導することが肝要であろう。

1. Question forms
2. Present simple and present continuous
3. 'Like'
4. Adverbs of frequency
5. 'Have to' and 'must' for obligation
6. Past simple
7. Past simple and past continuous
8. Articles (indefinite and definite articles)
9. 'Going to' and present continuous to talk about the future
10. Verb patterns with gerunds and infinitives
11. Present perfect
12. Present perfect with 'for' and 'since'
13. Comparatives and superlatives
14. 'Just', 'already' and 'yet' with the present perfect tense
15. Defining relative clauses
16. 'May', 'might' and 'could' for possibility
17. 'Used to'
18. Subject and object questions
19. 'Too much', 'too many', 'enough', 'not enough', 'very'
20. Mixed tenses
21. Indirect questions
22. Present and past passives
23. First conditional
24. Second conditional
25. State verbs and action verbs
26. Present perfect and past simple
27. Question tags
28. 'Will', 'going to', 'be likely to', 'might'
29. 'Used to' and 'would'
30. Present and past modals of ability

図2 Grammar Reference Easyのコンテンツ（ナンバリングは筆者が追加）

図2のコンテンツを一見すると、「easy」レベルであるが、動詞、法助動詞、準動詞に関するもので構成されていることがわかる。これは日本の英文法書のように、文型、文の種類、品詞等の文法項目を前半に配置している傾向とは大きく異なっている。実用的な英語の運用力に必要な文法という観点で捉えると、動詞や関連する要素を重視し、それらを使用しながら習得

していくことの重要性を示唆しているのかもしれない。

ここで、「6 Minute Grammar – easy」の一つのコンテンツを紹介したい。図3に見られるように、このコンテンツで学習する文法事項は現在時制と現在進行時制である。音声ボタンをクリックすると3名の会話によって現在時制と現在進行時制の説明がなされ、例文も紹介される。英語の音声によって文法事項を学習するため、CLIL方式による学習を体験できる。各セッションの会話や説明の内容には、全て図4のような英語のスク립トが閲覧できるようになっており、リスニング力が低い学習者であっても、内容を確認し、理解することができる。また、またスク립トもポッドキャストも全てダウンロードできるため、繰り返し学習することが可能となっている。

「6 Minute Grammar – easy」に関する受講生への課題は、この会話中に提示される文法事項の例文を参考にして、自分自身の行動や習慣などに置き換えた例文を作成させることとし、次回の授業でその例文を使った会話のペアワークを実施することで、文法事項の理解と使用法の定着を図ることを目的としたい。

図3の右側の「Session Grammar」では、学習する文法事項の簡単な説明が英語で記載されており、右下の「View full grammar reference」をクリックすることで、「Grammar Reference」が参照可能となっている。「Grammar Reference」ではより詳細な説明が閲覧できるようになっている。

6 Minute Grammar: Tenses

Present continuous and present simple

It's time for 6 Minute Grammar. This week Sophie and Neil explain the present simple and present continuous tenses. Don't forget that you can subscribe to the podcast version.

🔊 Listen to the audio

Session Grammar

Present Simple

We use the present simple tense for: things that we do regularly, facts, habits, truths and permanent situations

Example
I check my email every day. (regular activity)

Present Continuous

We use the present continuous tense for: things that are happening at the time we are speaking, temporary situations and activities that are in progress

Example
Just a minute. I'm checking my email. (now)

[View full grammar reference >](#)

図3 6 Minute Grammar (Session 2, Activity 3)

Hide transcript ▲

Sophie
Hello. Welcome to 6 Minute Grammar with me, Sophie.

Neil
And me, Neil. Hello.

Sophie
Today we're talking about the present simple tense...

Neil
...and the present continuous tense. Coming up in today's programme:

Sophie
We'll take a look at positives, negatives, and question forms...

Neil
We'll find out when to use each tense...

Sophie
We'll hear some short forms...

Neil
And we'll have a quiz to test what we've learnt.

Sophie
But first: the present simple tense. We use it to talk about things that happen regularly. Here's Finn with an example:

Finn
John checks his email every morning.

Sophie
Thanks Finn. So the verb **to check** is in the present simple – **John checks** - because he checks his email regularly – every morning.

Neil
We make the present simple with a subject plus a base verb – **I check, you go, we live, they wear**.

Sophie
For **he, she** and **it**, add an **s** to the verb. Can you demonstrate please Finn?

Finn
I always wear a coat in the winter. My brother wears a jacket.

図 4 6 Minute Grammar (Session 2, Activity 3) transcript

「Grammar Reference」は文法事項によって若干内容が異なるが、概ね以下のような構成となっている。図 5 の「Grammar Reference」は、前半部分の一部のみ提示しているが、「Grammar Reference」の最後には練習問題も配置されており、学習者の理解度を確認できるようになっている。

- 「Grammar Reference」の構成例
「Meaning and use」→「Form」→「Take note」→「Spoken English」→「Practice」

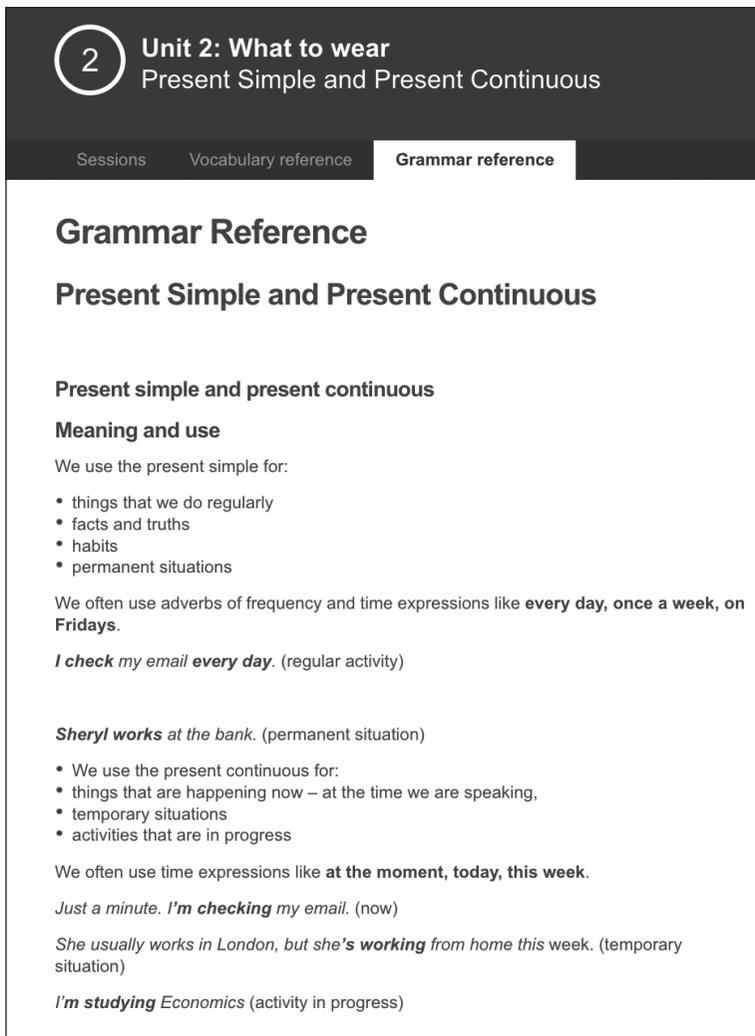


図5 Grammar Reference (Present Simple and Present Continuous) *一部のみ

「Grammar Reference」に関しては、受講者に閲覧を促すだけでなく、理解した内容をノートにまとめるように指示し、まとめたものを課題としてTeamsに提出させたい。さらに各自のノートを授業でのピア・ティーチングに活用するように促したい。そうすることで、理解の再構築を図ることができるとともに、教員志望の学生にとって理解した内容を他者に伝えるという重要な技術の練習にもなると考えている。

3. BBC Learning English 'Grammar'を活用した「英語の文法」授業案

授業案を作成するにあたり、新藤（2023）による効果的な自学自習に関わる重要なキーワードを挙げておきたい³。

- ・意義の実感による動機づけ
- ・学生によるタイムマネジメント
- ・アクティブ・ラーニング
- ・自己調整学習
- ・定期的な働きかけ（双方向コミュニケーション）
- ・教員によるラーニングマネジメント
- ・ブレンディッド・ラーニング

これらのキーワードに対して、上述の英文法教育に関する先行研究で提示された効果的な取り組み内容も追加しておくこととする。上のキーワードと重複するものもあるため、重複しているものは記載しないこととする。

- ・明示的な文法指導
- ・CLIL方式による文法学習
- ・ピア・ティーチングによる協同学習
- ・4 技能統合型の文法指導
- ・スモールステップによる文法指導

以下ではこれらのキーワードに基づき、自律的な文法学習の促進につながる可能性のある取り組みを取り入れ、BBC Learning Englishの「Grammar」コンテンツを活用したブレンディッド・ラーニングによる授業を具体化していく。

「英語の文法」の授業形式としては、教師主導の一斉講義形式を排除し、対面でのアクティブ・ラーニング形式の授業に、BBC Learning Englishの「Grammar」を自学自習課題として組み込んだブレンディッド・ラーニング形式としたい。ここで提示する授業案については、将来的に実践に移し、その結果を別の機会に報告することとしたい。

英語の教員養成課程を受講している学生を指導してきた筆者の経験に基づくと、受講者の学修の目的が明確であるため、自学自習の意義を認識させ、動機づけを行うことは、それほど労力を必要としないことが想定される。辻・杉山（2017）で通常の授業をアクティブ・ラーニング形式で行うことで、自学自習の意欲が高まると示唆されているように、授業では「6 Minute Grammar」で提示された例文を参考にしたペアワークによる会話練習、「Grammar Reference」の各回の文法事項に関する教え合いのワークを取り入れ、学習者の活動の活性化につながるようサポートを実践したい。

多くの受講者にとって自学自習は授業の一部として単位取得につながる外発的動機づけによって始まるが、内発的動機づけによる自律的な学修へと繋げる必要がある。図6のループリックで示している通り、「英語の文法」のシラバス上の評価項目にBBC Learning Englishの「Grammar」の取り組みを加え、課題ポイントの累計は各自で都度確認できるようにすることで、達成度を意識した自律的な学修へと促していきたい。

英語の文法（1年次 春学期）							
【学生に対する評価】							
<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み：30%（教科書の取り組み：20% + 6 Minute Grammarに関する活動：10%） 課題（Grammar Reference）：30% 確認テスト：40% 							
課題名	項目	S	A	B	C	D	E
6 Minute Grammar	授業内活動	学習した文法項目の例文を適切に使用しながらペアワーク等に積極的に参加し、十分な意思疎通を図ることができる	一部間違いはあるが、学習した文法項目の例文を使用しながらペアワーク等に参加し、概ね意思疎通を図ることができる	学習した文法項目の例文を半分程度を使用しながらペアワーク等に参加し、部分的に意思疎通を図ることができる	学習した文法項目の例文の一部を使用しながらペアワーク等に参加し、非常に限定的にしか意思疎通を図ることができない	学習してはいるものの、学習した文法項目の例文を使用してペアワーク等で発話することができない	ペアワーク等に参加しない
Grammar Reference	ノート課題および授業内活動	学習した文法項目を正確にノートにまとめ、教え合いによって適切に説明することができる	学習した文法項目に一部理解不足はあるが、ノートにまとめ、教え合いによって概ね説明できる	学習した文法項目の半分程度を理解し、ノートに記載し、教え合いで部分的に説明できる	学習した文法項目の一部のみ理解し、ノートに一部メモし、教え合いで非常に限定的にしか説明することができない	学習した事実はあるが、ノートにまとめおらず、教え合いで学習した文法項目について何も説明できない	ノートに全くまとめておらず、教え合いの活動に参加しない

図6 BBC Learning English 'Grammar' 自学自習のルーブリック

課題として自学自習した内容については、それぞれ図6のルーブリックに従い評価を実施する。「6 Minute Grammar」については、授業内のペアワークによる会話練習の活動状況で理解度と取り組む姿勢を評価する。「Grammar Reference」については、各回の文法事項に関するノートテキングを課題としてTeamsに毎回提出させ、そのノートの内容と授業内のピア・ティーチングによる活動状況をもとに評価を行う。学習した文法の内容に対して教え合いの活動を促すことで、授業外の学修の意義を体感させるとともに、教員としての伝達スキルの向上も図っていきたい。

授業後は可能な限り翌日までにルーブリックのそれぞれの項目に対するフィードバックを学生に返信し、教員からのフィードバックによる評価の可視化によって自律的な継続学修へと導いていくとともに、定期的な激励をすることで継続的な学習が定着するようサポートを行なっていくこととする。次回の授業までにルーブリック評価を確認しない学生もいることは想定されるため、図7の授業案に示している通り、授業の導入部でTeamsにて前回の課題のルーブリック評価を再確認させるようにし、全員がその都度自身の評価を認識するように促していきたい。

時間	学修事項	学生の学修活動	形態
00:00 00:03 00:05 00:08 00:13	【導入】 1. 学修目標の確認 2. 前回のBBC LEルーブリック評価の確認 3. 授業内容の説明とBBC LE課題の提出確認 4. 6 Minute Grammar (Easy) 5. Grammar Reference (Easy)	<ul style="list-style-type: none"> ●学修目標の確認 ●Teamsにて前回の課題の評価の再確認 ●本時の授業展開に関する説明を聞く ●BBC LEのGrammar Reference課題のTeamsへの提出確認 ●学習した文法項目の例文を使用した会話を行う ●各回の文法項目の内容を踏まえ、ピア・ティーチングを行う 	個人 個人 一斉 個人 ペア ペア
00:23	【展開】 6. 教科書に即した授業		
01:20 01:25 01:27 01:29 01:30	【まとめ】 7. リフレクション提出 8. 教科書の予習・復習内容の提示 9. BBC LEの課題箇所への提示 10. 授業外学習時間の再確認 【終了】	<ul style="list-style-type: none"> ●学習した内容に関する振り返りをTeamsに入力 ●予習・復習内容の確認 ●BBC LE課題箇所について相互に確認 ●210分以上/週（30分/日）の目標を相互に再確認 	個人 一斉 ペア ペア

図7 BBC Learning English 'Grammar'を組み込んだ授業案（教科書に関する授業の展開は省略）

文部科学省の令和4年度全国学生調査によると、大学生全体の「予習・復習・課題など授業に関する学習」に1週間のうち費やした時間は、「0時間」が17.3%、「1-5時間」が45.2%という結果であり、授業外学習に費やす時間がかなり少ないといえる。授業時間外の自学自習の必要性が高まっているのに対し、大学生の自学自習の実態は比例しておらず、かなり少ない状況である。

宇佐美（2016）が示唆しているように、計画的な学習を促すことで自律的な学習習慣の育成につながるため、この「英語の文法」の授業では、授業外学習時間を明確に設定し、計画的な学習を促すことを試みる。教科書に基づいた授業内容に関する予習・復習とともに、「Grammar」の課題取り組みに費やす時間として、1日あたりの学習時間を30分以上と設定し、1週間あたり210分以上を目安とする。様々な学外活動に忙しい学生に対して継続可能な無理のない授業外学習時間の目標を設定し、毎回の授業の最終段階で繰り返し確認し、授業外学習時間の意識づけを行うこととする。

授業外学習の促進にあたっては、現在も筆者の各授業で行なっているが、Teamsを活用した働きかけが重要となってくる。授業外の学習時間の目安を設定していても、学生が学習を忘れてしまう可能性や、孤独感や孤立感を感じる可能性もあるため、Teamsを経由して、定期的に学習を励ますメッセージと、締め切りを伝えるリマインダーを受講者全員に送信するようにしたい。学習のログがTeamsに残っていない学生に対しては、Teamsのチャット機能を活用し、個別の励ましメッセージの送信や質問への回答に加え、必要があればグループチャットにて学生間のやり取りを促進させたい。

この授業を通じて1年次の授業外の自律的な自学自習の定着を図り、さらに長期にわたる英語の文法に対する継続的な学修へと繋げるためには、1年次の初期に図8のような4年間の英

文法学修のロードマップを提示することも重要になる。自学自習の重要性を説き、1年次秋学期にはBBC Learning Englishの「6 Minute Grammar (easy)」と「Easy Grammar Reference」の後半の15のセッション、2年次に「6 Minute Grammar (Medium)」と「Medium Grammar Reference」、3年次に「Medium Grammar Reference (2)」と「Hard Grammar Reference」、さらに4年次では、「The Grammar Game Show」にて英語の文法力のブラッシュアップを促す。教育実習までに文法に関する知識の習得の重要性を強調し、4年間にわたる継続した自学自習のサポートを展開できればと考えている。



図8 BBC Learning English 'Grammar'自学自習のロードマップ

4. おわりに

本稿では、多くの大学生の英文法の知識や理解が不足している現状を踏まえ、特に将来英語の教員を志望している学生の英語の文法力の向上を目的としたブレンディッド・ラーニング型の「英語の文法」授業を考案した。英語の教員養成課程のコアカリキュラムの専門科目であるため、英語力の向上に関する意義や動機づけを予め備えている教員志望の学生が対象となる。動機づけに関して大きな不安要素はないが、英文法という苦手意識の「情意フィルター」が高まり、学修の障害になる可能性があるのは否めない。

入学までの英文法の学習時間が少ない上に、学習方法もわかっていない学生がいることで、1年次の「英語の文法」の事業の展開に苦慮することが多々あるが、上述の自学自習の改善に向けたキーワードを念頭に置き、授業外学習の重要性を説きながら、自学自習部分を毎時の会話練習やピア・ティーチングを用いたブレンディッド・ラーニング授業を展開したい。毎回の授業を進めていく中で、学修の進捗や達成度を教員と受講者で相互に都度確認するとともに、自習時の働きかけやラーニングマネジメントの実践による教員側のある程度のコントロールを経ることで、自律的な学修に一定の効果が得られることを期待したい。

さらに、英語の教員志望の学生が対象であるため、BBC Learning Englishの「Grammar」によるCLIL方式の文法学習によって、英文法が4技能の向上を下支えしており、習得することでコミュニケーションの幅が広がることを認識できるように働きかけを行なう必要がある。一方で、ポッドキャストによるCLIL学習を継続することで、学生が将来教員になったときに、教え方の技術として参考になるものでもあるという気づきを促すことができると考えている。

1年次の初期の授業において4年間にわたる継続した自学自習の重要性を説くとともに、英語教員としての目標となる将来像を常にイメージさせながら、自律的な英語の文法の学修へと導く継続的なサポートを展開していきたいと考えている。本稿のブレンディッド・ラーニングによる「英語の文法」の授業案の成果等については、実践した後、別の機会に報告するとこととしたい。

【注】

- ¹ Saunders (2017) およびLauer (2011) でBBC Learning Englishが共通に評価されており、Saunders (2017) では第3位に評価され、Lauer (2011) においてもBBC Learning EnglishのポッドキャストでもあるBBC's 6-Minute Englishが最も良いポッドキャストとして評価されている。また、無料で使用できる上に、コンテンツが豊富であるため、授業の目標とする技能に焦点を当てたコンテンツの学習が可能である。
- ² 新藤 (2023) では、自学自習の問題点に対する先行研究の取り組みをもとに、効果的な自学自習に必要な要素を取り入れ、自学自習を促進するBL型の「英語コミュニケーション」の授業を考案している。
- ³ 新藤 (2023) では、自学自習に効果をもたらすものとして重要なキーワードを挙げている。P. 22

【引用文献・参考文献】

- BBC “Learning English” (<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/>) 2023年12月20日閲覧
- 長谷川文子 (2020) 「英文法授業における協同学習の効果—リメディアル教育を必要とする大学生を対象として—」『拓殖大学語学研究』142, 137-153
- 日墓滋之、松本博文、高橋貞雄、鈴木彩子、小田眞幸、榎本正嗣、丹治めぐみ (2012) 「大学入学前の文法の定着度に関する研究」『論叢：玉川大学文学部紀要』53, 31-58
- 加藤みゆき (2020) 「英語を専門としない大学生に対する英文法基礎的知識再構築の試み：be動詞理解とMAP Grammarの活用」『愛知学泉大学紀要』2 (2), 17-27
- Lauer, Joe (2011) English Podcasts : The State of the Art『広島外国語教育研究』14, 61-70
- 前田和彦 (2010) 「大阪商業大学1回生の英文法理解度についての一考察—Advanced クラスと Standard クラスに焦点をあてて—」『大阪商業大学論集』6 (2), 91-102
- 文部科学省「令和4年度「全国学生調査（第3回試行実施）」結果（大学）【資料編】」(<https://www.>

- mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm) 2023年10月1日閲覧
- 大城直人 (2018) 「大学生の英文法に対する意識・態度・行動に関する量的研究：英文法の学習・指導方法への示唆」『沖縄キリスト教学院大学論集』15, 13-27
- Robson, Graham G (2006) Attitudes towards Grammar at a Japanese University 『千葉商大紀要』44 (1), 53-67
- 佐藤敏子、中川武、山名學美 (2007) 「大学生の英語学力調査：学習者はどこでつまづくか」『つくば国際大学研究紀要』13, 51-68
- Saunders, Thomas C. (2017) A Brief Catalogue and Review of Key Online Video Resources and Platforms 『The Center for ELF Journal』3, 27-37
- 新藤照夫 (2023) 「BBC Learning English の自学自習における有用性－BL 型「英語コミュニケーション」授業への活用－」『神戸親和大学 教職課程・実習支援センター研究年報』7, 19-29
- 立田夏子 (2021) 「プレنديッド・ラーニングを取り入れた再履修クラスカリキュラムの検証：自己調整学習の観点から」『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』5, 1-16
- 徳永美紀 (2018) 『日本人大学生の明示的・暗示的英語知識の測定：わからないのか使えないのか』科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書
- 築道 and 明 (2021) 『大学生英語学習者のつまづきの要因と適切な支援』科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書
- 辻義人、杉山成 (2017) 「同一科目を対象としたアクティブラーニング授業の効果検証」『日本教育工学会論文誌』40 Suppl. 45-48
- 宇佐美彰規 (2016) 「自律学習eラーニングの英語学習と学習習慣に関する調査」『武庫川女子大学情報教育研究センター紀要』25, 4-7
- 横田秀樹、白畑知彦 (2021) 「大学生の英文法習得難易度順序の調査」『中部地区英語教育学会紀要』50 (0), 251-258